





白居明  
編輯兼  
出版人  
長谷川園吉  
九年十二月廿日  
傳馬町三丁目  
十六番地

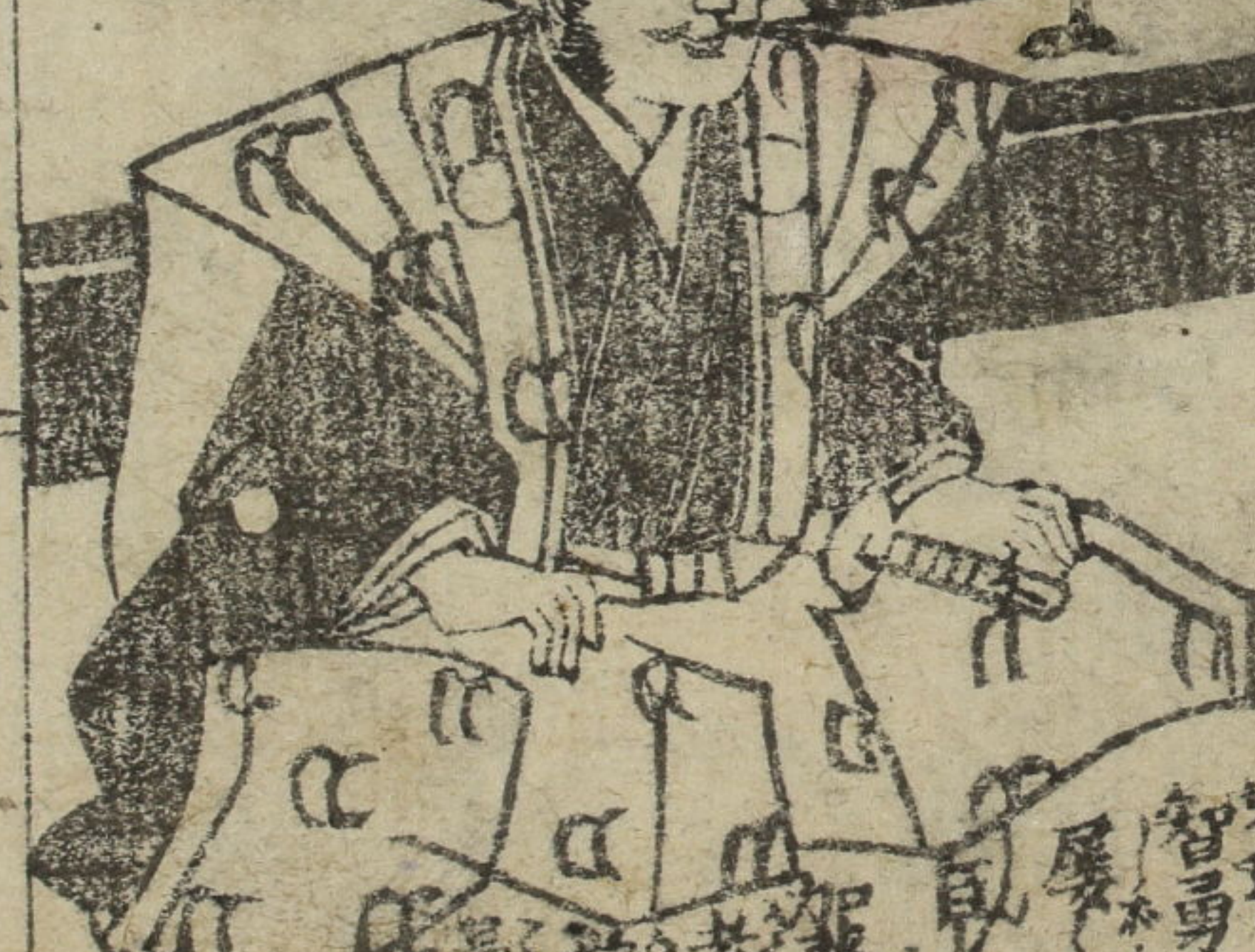


力能兼任鄙  
智尚過管中



加藤虎之助





兵天剛兵衛我慢大郎と云  
 二人の大剛の若あり共我者  
 修行とて勇助の傳り上才の  
 智勇不常  
 屢願平  
 願あり  
 罪家の  
 老範田  
 寛兵  
 是の  
 天の  
 龍の  
 九の  
 力と

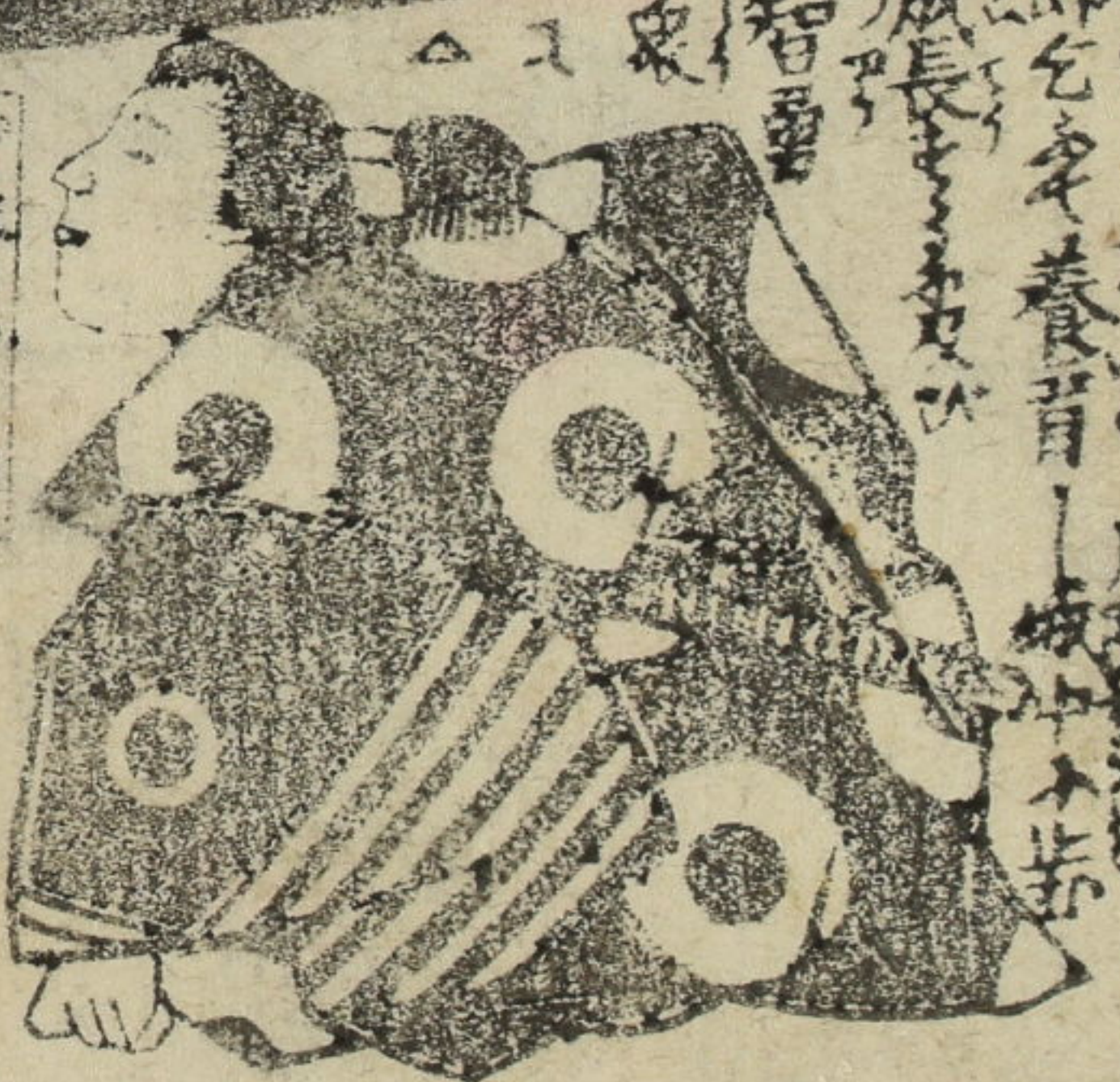
三  
 四

三

清正

古往今来双とあり  
 武徳を扶桑と弘開  
 せしめ神儀と崇め  
 られ給ふ如藤肥後の大  
 守主計頭清正其祖先  
 と尋ねると大職満定公  
 の後流美濃国牧村の城主  
 如藤武者所始りて武家と  
 あり敷代と經て家二び子孫  
 尾張愛知郡中村に傳るる  
 一とてて傳るる之財をよの  
 りの一時は才  
 ありて  
 元服

一清正と名するは知勇泉子  
 此後子と傳りて勇助と名す  
 即ち養育し城守とす  
 成長し其才  
 智勇



此の  
 傳りて  
 又八領分  
 ありて  
 天の  
 龍の  
 九の  
 力と



と時秀  
 吉江川  
 長濱の  
 城守り  
 虎之助  
 其手始  
 名乗らせ  
 其手始  
 名乗らせ  
 其手始  
 名乗らせ

〇うら目付役を命せら  
 れたり時て 井夫  
 領分と通見せ  
 混士三人喧嘩  
 仁義を以てせ  
 め兩人金子と下  
 すり而合と趣  
 名乗二人  
 八井上九郎  
 以今一人本村



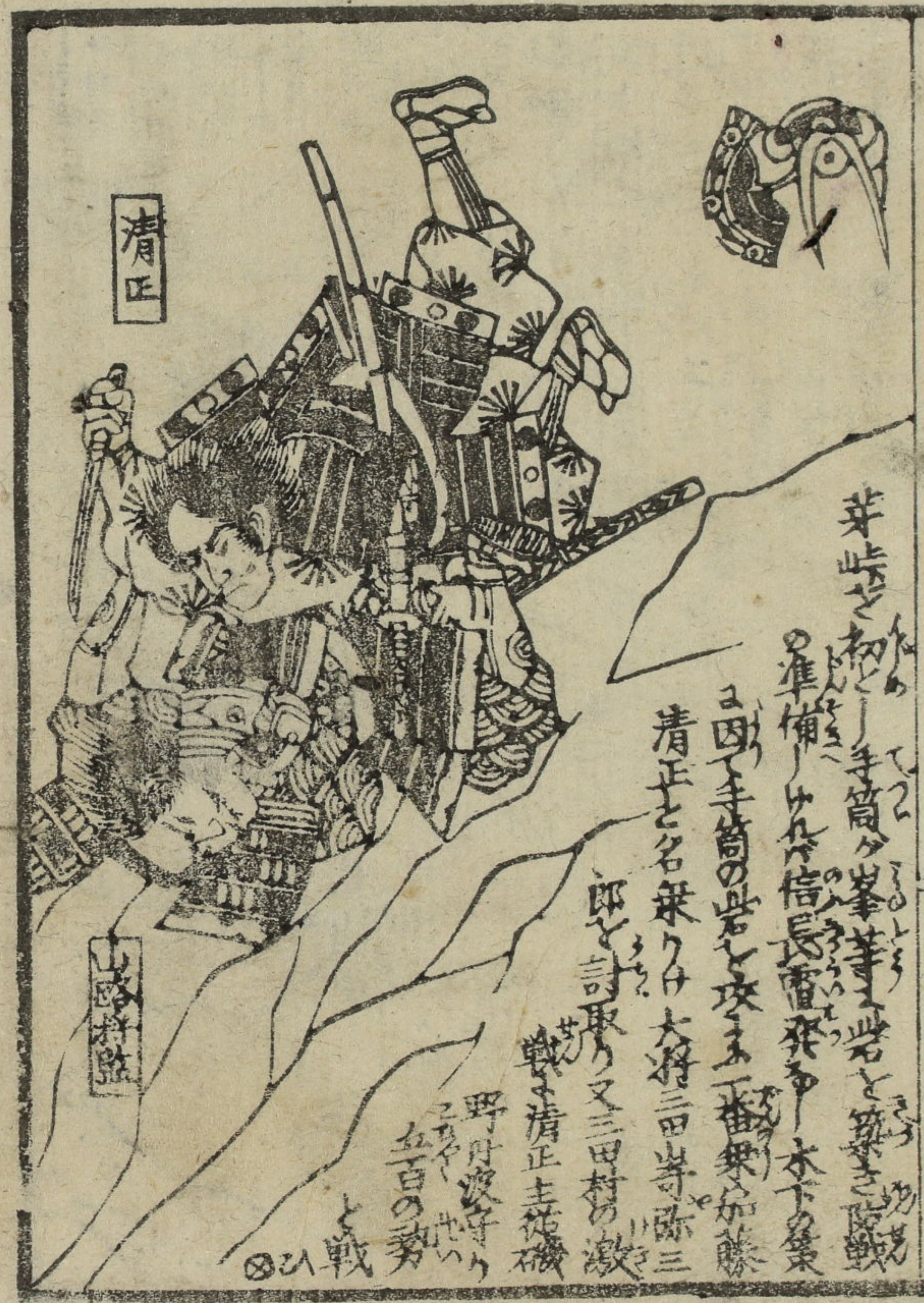
龍さ使中前  
 の朝倉義景  
 のま帰本  
 近男  
 四家痛  
 武威織  
 諸將あ

有が  
 大かあり  
 推本  
 之助  
 と中島  
 半助是



〇即時に  
 本村の老母  
 去りけり  
 利家の成





清正

山路抄

非特之初ノ手筒ノ峯等ノ岩と築き置戰  
 準備ハハ信長置來申ノ木下ノ策  
 二因テ手筒の岩と攻メ二番衆加藤  
 清正と名乗りハ大将三田守跡三  
 郎と討取り又三田村の激  
 戰ハ清正主從破  
 野丹渡守リ  
 五百の勢  
 〇ハ戰



大将を討取

一様軍をよリ付加増  
 又姉川の戦ハ勝阪  
 甚内ととリて中秀吉ハ  
 江州横山の城主あり大  
 將信長の御許へ年々出  
 留守とて長政  
 横山の城を攻メ  
 急あり支とせり〇

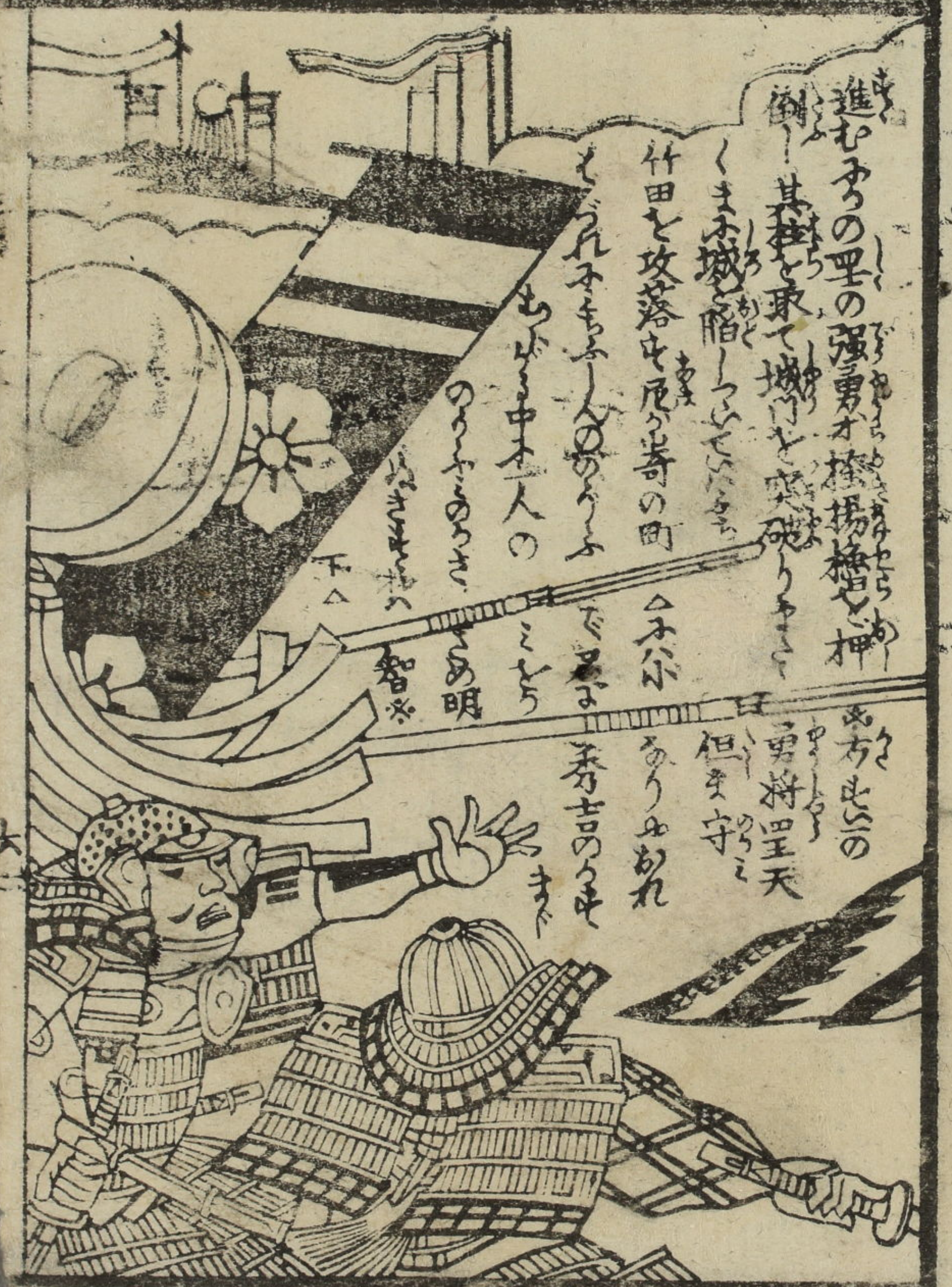
五

〇秀吉  
 へ歸城ハ信長  
 中あり清正ハ  
 四勇生と從二番  
 入横山へ衆附淺  
 井勢と追散  
 又同國山本の城ハ  
 阿閉涉路守ハ文童



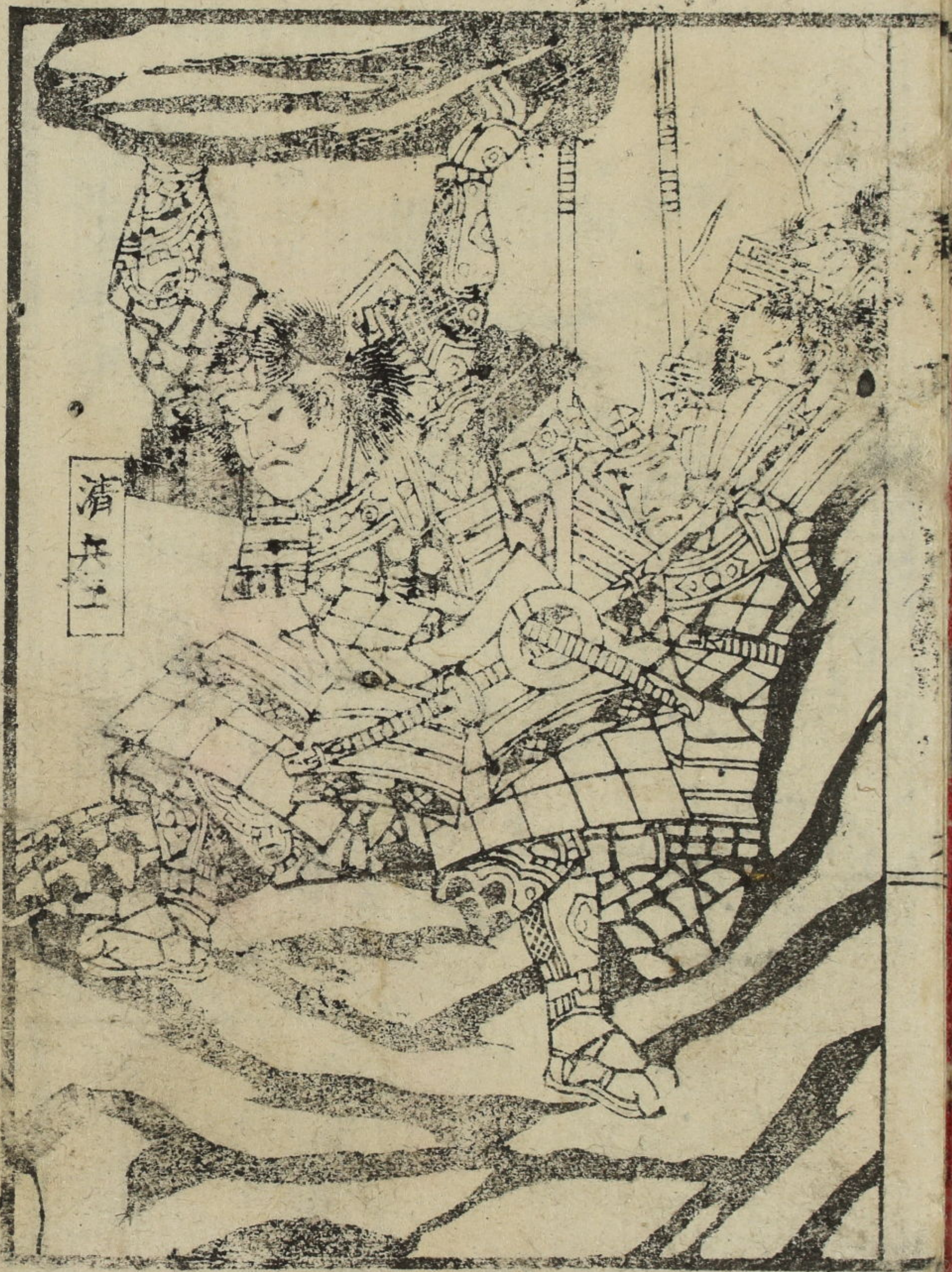


秀吉千よきの心  
 不清正を先頭として  
 進ト木村がけん  
 主後僅て七人  
 南へ向ひて  
 此戦は清正  
 へて疵を負  
 そより取伴作  
 が助より遁れ  
 其後山口と攻時清正真先



進む所の聖の強勇才極揚槍と押  
 倒し其料を取て城門を突破りて  
 くま城陥しついでに  
 竹田を攻落中尾の奇の田  
 とづれにもふ一人のあうふ  
 もいの中一人の  
 勇將星天  
 但守  
 ありおわれ  
 秀吉の心  
 明  
 智





一、此乃... 二、此乃... 三、此乃... 四、此乃... 五、此乃... 六、此乃... 七、此乃... 八、此乃... 九、此乃... 十、此乃...









清正

家へぞかし  
天に切なるもの  
色は若く  
を代あか  
の数は  
小幸ある

手遊繪

上品々

繪入略曆

志

御届明治

十九年一月

日

編集兼出版人

山傳馬町三丁目大森

長谷川

月

